



「新入生諸君への期待」

岩手県立農業大学校 校長 小原 繁

岩手県立農業大学校に入学された新入生53名の皆さんを心から歓迎いたします。

さて、本校は、高度な専門的知識と技術、幅広い教養、国際性を身につけた農業・農村の担い手を養成し、社会の期待に応えていくという大きな使命を有しており、創立されてから、これまでに三千名を超える優れた人材を輩出し、その多くの方が県内各地において、地域農業を牽引するリーダーとして活躍されております。

農業を取り巻く環境は、農村における人口減少、毎年のように起きる大規模な気象災害、新型コロナに起因すると思われる消費の減退と価格の下落、そして国際状況による燃油・資材の高騰など、様々な課題を抱えております。

こうした課題解決に向け、本校においては、高度な知識と農業技術を身につけることとともに、ITを活用した新たな農業のあり方や、農業分野の情報発信の展開など、豊かな創造力と感性を持った新しい時代の農業を担う優れた人材の育成を目指しております。

岩手県が生んだ偉人、宮沢賢治は、童話作家として有名ですが、肥料の使い方や新しい品種の導入を進めるなど農業技術指導者として、農業の近代化に尽力したことで知られております。賢治は、自身の著書の中で「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」と書いております。解釈はいろいろありますが、賢治が農村社会への貢献に決意を示した言葉ではないでしょうか。

本校で学んだ後、皆さんに期待することは、「岩手農大で身につけた知識と技術を使い、将来の農業を担う人材としての役割を果たすとともに、地域社会への貢献に努力してほしい。」ということです。

本校は、各々の目標達成と社会に貢献できる人材に成長できるよう、できる限りの支援をさせていただきます。



学生自治会長として

学生自治会長 小野寺 千華 (果樹経営科2年)

1年生の皆さん、御入学おめでとうございます。
岩手県立農業大学校へようこそ！皆さんの入学を心待ちにしておりました！

慣れない生活の中大変なこともあると思いますが、遠慮せず2年生に聞いてください。

今年度は新型コロナウイルス感染症対策の規制緩和により、昨年よりも自由に様々な活動ができるようになると思います。自治会でも、皆さんが楽しく充実した学校生活を送れるように、積極的に意見・提言を集め、行事などに反映していきたいと思っています。たくさん意見を出して、皆さんの手でより良い学校にしていきたいと思います！



皆さんを歓迎します！（2年生49名）

新 入 生 メ

農産経営科



農産経営科1年 関 眞之介 (せき しんのすけ)

農業高校出身で、高校の三年間を寮で生活していた私が、農大に入学して感じたのは自由さと自主性の違いです。

まず、自由さを感じたのは寮生活です。高校と違うのは、最低限のルールを守れば、基本的に自由であることです。次に、自主性は特に実習の授業で感じました。最初のミーティングで指示を受けた後は、生徒同士で考え行動しなければならないからです。

今後、農業の知識を学び、先輩から実習での仕事を学び、卒業後に生かせるよう努力します。

農産経営科1年 藤倉 佑輔 (ふじくら ゆうすけ)

私は農業高校の出身で、高校でも農業について学習してきましたが、農大での講義を受けてみると、これまで知らなかった新たなことを知ることができています。

また、寮生活について、入寮する前はあまり自由がきかないと思っていましたが、そんなことはなく思っていた以上に自由な生活を送っています。これからは、まだ知らないことを学びながら、充実した生活を送っていけるように頑張ります。

野菜経営科



野菜経営科1年 工藤寿人 (くどう ひさと)

「農業をしてみたい」そんな思いで入学した私。農業と無縁だったため、入学当初は寮・学校生活に不安を抱えていました。しかし、いざ生活してみると、なんとということでしょう！先輩や先生が懇切丁寧に指導して下さるため、農業に無知な私でもしっかり学べるではありませんか！

未来の農業を支えるため、精一杯勉学に励みたいと思います。

野菜経営科1年 櫻田萌子 (さくらだ もえこ)

私は、将来農業に関わる仕事に就きたいと思い、農業大学校へ進学しました。

高校は商業科だったので分からないことも多いですが、先生方や先輩方が丁寧に指導して下さるので、楽しく学ぶことができます。また、資格取得に向けても学習も充実しています。

将来の農村社会への貢献のためにも、一生懸命学んでいきたいと思っています。

果樹経営科



果樹経営科1年 佐藤日伽莉 (さとう ひかり)

私は普通科の高校に通っていたため、入学当初は講義についていけるか心配でしたが、農業大学校の先生方は基礎から教えて下さるため、初心者でも楽しく学ぶことができています。また、校内で実際に果樹に触れたり、外部の方のところへ行き、実習をさせていただいたりするので毎日が充実しています。2年という短い期間ですが、農業大学校で多くのことを学び、将来に活かしたいです。

果樹経営科1年 千田 小百合 (ちだ さゆり)

私は普通科の高校かつ非農家ではありますが、農業の知識を深め、専門的技術を学びたいと思い農業大学校に入学しました。入学当初は、寮生活や授業に対する不安もありました。しかし、今は先輩方・先生方に多くのことを教わり、友達とお互いに協力しながら、日々楽しく生活しています。これから2年間、農業大学校でたくさん学び、経験して得た知識や技術を自分のものにできるよう精進していきます。

ツセージ

花き経営科



花き経営科1年 石川 樹 (いしかわ いつき)

私は、家業のユリ農家を継ぐために農業大学校に入学しました。入学当初は、普通高校出身ということもあり、農業専門の授業や寮生活など慣れないことが多く不安もありましたが、友だちや先輩方に支えられながら楽しい農大生活を過ごしています。2年間という短い期間ではありますが、花き栽培の技術や経営における知識をしっかりと身につけられるように頑張っています。

花き経営科1年 齊藤 花恋 (さいとう かれん)

私は、寮生活は初めてで、花きの知識もそれほどないので、周りにちゃんとしていくことができるか、入学直後はとても不安でしたが、今では他の経営科の人たちともたくさん交流して、充実した毎日を送っています。これからの授業を通じて知識や技術、コミュニケーション力を身につけるとともに、フラワー装飾技能証を取得するなど、進路選択の幅を広げていけるように頑張りたいです。

酪農経営科



酪農経営科1年 石倉 琉星 (いしくら りゅうせい)

私は、農大で多くの人達と関わり、1日に1個以上新しい発見ができる充実した学生生活を送りたいと考えています。そのために私は、自ら先輩や先生方に少しでも疑問を思ったことは質問し、知識と経験を蓄えていきたいです。高校生活では、日々の小さな努力の積み重ねが最終的に自分の夢の実現に繋がることを学びました。明るい酪農の未来を創り出すためにも、小さなことでよいから自分を信じ挑戦することを大切にしたいです。何事にも挑戦し、自分の理想とする持続可能な酪農経営を実現させたいです。

酪農経営科1年 平 光花 (たいら ひろか)

農業大学校入学当初、寮での2人部屋生活は大変だろうなと思っていました。実際の大学生活が始まると、2人部屋だと助けあうことができたり、先輩とコミュニケーションをとることができたりと楽しい毎日を送っています。農業について分からないことが山ほどあります。周りの人にたくさん聞いて、得た知識を自分に蓄積していきたいです。また、資格取得や様々なことにもチャレンジしていきたいと思っています。

肉畜経営科



肉畜経営科1年 奥寺 星華 (おくでら せいか)

農業大学校では、農業の基礎や牛についてのことなど専門的なことについて一から学ぶことができ、内容も新しいことばかりで楽しく授業に取り組んでいます。寮生活では、初めは慣れなくて大変なところもありましたが、今では友達と仲良く過ごすことができて充実しています。これからは、畜産に携わる上で必要な資格取得に向けての勉強や他にも様々なことに積極的に取り組みながら、学生生活を送りたいと思います。

肉畜経営科1年 新田 悠治 (にった ゆうじ)

私は幼い頃から家で飼育している和牛と過ごし、もっと牛のことについて知りたいと思い、農大に入学しました。入学当初は、寮生活や先輩との人間関係など心配もありましたが、優しい先輩や友達、先生方に支えられ、今はとても充実した毎日を送っています。農大での2年間はあっという間に過ぎていくと思いますが、周りの人たちとの繋がりを大切にしながら、牛のことを深く勉強して、将来につなげていけるよう頑張りたいです。

入学式 ～夢と希望に向かっての決意～



新入生代表による誓いの言葉



小原校長式辞

令和5年度入学式を4月11日（火）に挙行し、新入生53名（農産園芸学科39名、畜産学科14名）が入学を許可されました。

入学許可の際、担任の呼名に際して力強い返事があり、夢に向かう強い決意が感じられました。

次に、式辞として小原繁校長が「実践教育・先進教育・全寮制教育という本校の三つの特色をよく理解し、自己の可能性に挑戦し、感性を磨き、意欲的に勉学に励んでほしい。そして、将来の農業を担う人材として、地域社会へ貢献してほしい。」と述べました。

その後、藤代克彦県農林水産部長による知事告辞があり、御来賓の五日市王県会議長（代理：小野共副議長）及び高橋寛寿本校後援会会長（金ケ崎町長）から御祝辞を賜りました。

続いて、学生自治会長の小野寺千華さん（果樹経営科2年）が、「皆さんを心から歓迎する。不安だろうがすぐに慣れると思う。安心して農大生活をスタートさせてほしい。農大では、農業の基礎的知識や技術、経営手法を学び、事例研究で視野を広げることができる。また寮生活では、生涯の仲間ができる。困ったときは声をかけてほしい。」と歓迎の言葉を述べました。

引続き、新入生代表の千葉愛華さん（肉畜経営科）が、「この緑豊かで雄大なキャンパスの中で、農業の専門知識や技術を身に付けることに大きな喜びを感じ、農業界を担う人材になるという使命感を抱いている。若い世代だからこそできること、思いつくアイデアがある。日本の農業のために何ができるのかを意識して勉強に励みたい。」と決意を述べました。

会場は、花き経営科2年の学生が見事にアレンジした生花で彩られ、新入生は夢と大志の実現に向けて大学校生活をスタートしました。

令和4年度卒業生50名の進路

（令和5年3月31日現在）

進路	人数	内訳
就農	10	八幡平市、岩手町、一関市、洋野町、秋田県（横手市、大潟村）、宮城県（大崎市、富谷市、大河原町）、
雇用就農（農業法人等）	19	江刺スターファーム(株)、よこみちファーム(株)、(株)耕野、(有)ファーム菅久、(株)一穂一笑、北日本JA畜産(株)藤沢牧場、(株)あんばい牧場、(株)小形畜産、(一社)家畜改良事業団盛岡種雄牛センター、(株)COWROAD、(有)小比類巻家畜診療サービス、(株)岩手パイオニア牧場（金ケ崎農場）、(株)西部開発農産、ベルグアース(株)花巻農場、(有)耕佑、個人
農業研修	0	
進学	2	新潟大学農学部、秋田県立大学生物資源科学部
就職	農業団体	8 JAいわて平泉、JA岩手ふるさと、JA江刺、JAいわて花巻、JA新しいわて、NOSAIいわて、JA秋田ふるさと
	農業関連企業等	2 (株)秋田クボタ、ヤンマーアグリジャパン(株)東北支社
	公務員等	3 岩手県、久慈市、(独法)家畜改良センター
	一般企業等	4 (株)キタカミデリカ、(株)エフビー、(株)富士シティオ、(有)小専商店

今後の主な行事予定

月日	内容
6月1日	知事講話
6月23日	学生自治会スポーツ大会
7月21日～8月16日	夏期休業
7月29日、8月4日	オープンキャンパス
8月31日、9月1、4日	前期定期試験（本科1年）

